

専門研修プログラム名	心と身体に対応可能な	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人高柳会 赤城病院	
プログラム統括責任者	中島 政美	

専門研修プログラムの概要	群馬県前橋市の地域精神科病院である赤城病院を基幹施設として、群馬県の中毛地区医療圏、東毛地区医療圏にある連携施設および大阪府と沖縄県にある連携施設とで精神科専門研修を経て群馬県、および東・西日本の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた精神科専門医として群馬県全域を支えるプライマリケアの出来る精神科専門医の育成を行います。そうしたことで、一人でも多くの健康寿命が長くなることを願います。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	初期臨床研修を修了した精神科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施2年～2年半＋連携施設半年～1年）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、精神科専門医制度研修カリキュラムに定められた精神科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な精神科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。	
	修得すべき知識・技能・態度など	精神科領域全般の診療能力とは、精神科専門医に共通して求められる基礎的な診療能力となります。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して様々な環境下で全人的な精神科医療を実践する先導者の持つ能力です。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	直接の指導医は臨床経験10年前後の中堅医師が指導し、バックアップとして精神科経験20年以上のベテラン指導医2人の体制をとっています。また、沖縄県の連携先病院と定期的な画像診断読影カンファレンスを実施しています。院外の救急医並びに精神科医を招いた定期的なカンファレンスも実施しています。広い視野を持った教育体制を採っています。General思考をつけるために、毎月、専攻医向けに院外より精神科以外を専門とする各科専門医（救急医、総合診療医、内科、循環器内科、外科など）の教育回診を行います。
	学問的姿勢	現在直面している超高齢化社会にむけて、単科精神科病院やクリニックで身体合併症が生じたときでも、自信を持って自身で十分対応できるような、精神科医としてのプロフェッショナルリズムとGeneralなマインドを持ち、患者中心の医療ができる医師育成を目標としています。

専攻医の到達目標	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	<p>①倫理性・社会性→地域連携をとおして社会で活躍する他職種の専門家と交流する機会が多くあり、その中で社会人として常識ある態度や素養を求められます。また社会の中での多職種とのチームワーク医療の構築について学習します。症例を通して身体科との連携を持ち医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができ、社会人として常識ある態度が養われます。②コアコンピテンシーの習得→日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)を高める機会を設けています。法と医学の関係性については日々の臨床の中から、様々な入院形態や、行動制限の事例などを経験することで学んでいきます。診断書、証明書、医療保護入院者の入院届、定期病状報告書、死亡診断書、その他各種の法的書類の記入法、法的な意味について理解し記載できるようになります。チーム医療の必要性については地域活動を通して学習します。また、院内では集団療法や作業療法などを経験することで他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当してもらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担います。</p>
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年次には、段階的なステップを踏んでチームのリーダーとなるべく能力を養っていき、身体合併症も経験するのみではなく、実践治療することができることを目標にしていきます。2～3年次には、身体的アセスメントも行いながら主治医として、入院・外来症例を経験することができます。
	研修施設群と研修プログラム	初期臨床研修を修了した精神科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年～2年半＋連携施設半年～1年）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、精神科専門医制度研修カリキュラムに定められた精神科領域全般（児童・思春期障害、アルコール・薬物依存症含む）にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な精神科的医療の実践に必要な知識と技能を修得します。
	地域医療について	赤城病院精神科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修期間中の2年～2年半、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、精神科専門医に求められる役割を実践します。
専門研修の評価	専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム統括責任者（中島政美）およびプログラム管理委員会（4に記載したメンバー）で定期的に評価し、改善を行います。	

修了判定	①3ヶ月毎に、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。②研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックします。③1年後に、1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成します。またその結果を統括責任者に提出します。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いています。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行います。
	専攻医の就業環境	1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理) 基幹施設の就業規則に基づき勤務時間、休日、有給休暇などを与えます。①通常勤務(日勤) 9:00~17:00(休憩休息 45分) ②宿直勤務17:00~翌9:00③休日 日曜日、国民の祝日・年間公休数は別に定めた計算方法による・年次有給休暇を規定により付与します・その他年末年始、夏季休暇、慶弔休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業等の特別休暇については、就業規則の規定により請求に応じて付与します。④その他それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規定に則って勤務します。なお、自己学習日についてはいずれの施設においても出勤扱いとします。また、本プログラム参加中の者には精神神経学会総会、同地方会、日本精神科医学会への出席に限り交通費を研修中の施設より支給します。
	専門研修プログラムの改善	研修施設群内における連携会議を定期的に行い、問題点の抽出と改善を行います。専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行います。
	専攻医の採用と修了	採用判定方法：一次判定は書類選考で行います。そのうえで二次選考は面接にて行います。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	各要望に対して相談に応じながら柔軟に対応します。
	研修に対するサイトビジット(訪問調査)	日本専門医機構・日本精神科神経学会による施設実地調査(サイトビジット)ならびに研修内容に関する監査・調査・評価を受ける体制にあります。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	関口 秀文 病院長、原 秀之 院長補佐、中島 政美 副院長、三丸 剛人 神経発達部長	
Subspecialty領域との連続性	希望者はSubspecial領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできます。	